



経験への開放性

今年は千葉にはまだ雪が積もらないので、去年の反省から買っておいた雪かきスコップの出番は当分なさそうです。このまま高校入試、大学入試の日まで穏やかな天気が続くといいのですが、受験生はインフルエンザだけには気をつけてください。

さてオーストラリアの大学の研究チームが行った、学校の成績は知能よりも性格との関係が強いという調査結果を最近知りました。その内容が今まで塾で教えてきた実感とかなりつながるのでご紹介しましょう。心理学で一般的に扱われるのが、外向性・情緒安定性・協調性・勤勉性・経験への開放性の5つの性格特性です。この中で成績に最大の影響を及ぼすのが、「勤勉性」と「経験への開放性」だったということです。勤勉性はすぐイメージできると思いますが、経験への開放性というのは簡単に言うと知的好奇心や新しい情報を得ることにどれほどワクワクするかを示す因子。塾生とのつきあいから言えるのは、新しいことを経験するのに臆病なのか、それともいろいろなことに興味を持ちチャレンジする気持ちを持っているのかは結構大きな差になってくるということです。例えば中学入学の時に、算数が数学に変わることを「難しくなりそうでいやだな」と最初から思うのか、「小学校よりは難しいのだろうけど、どんなことを習うのかちょっと楽しみ」と考えるのか。入口としてはほんの少しの気持ちの差かもしれませんが、この差はそのまま学習の定着度の差になります。教える側からすると新しい知識を伝えようとしても、それを受け入れる気持ちがなければ効果は薄いと感ずることが多々あります。幸いこの塾では自分で学ぼうという気がある人たちがほとんどですが、その気持ちにはやはり濃淡があるようです。

それではどうしたらいいのか？これも研究チームがヒントを出してくれています。調査から言えるのは「性格は変えられるもの」ということ。自分からも、また周りからの働きかけによっても。もちろん勤勉性の差も忘れてはいけません。この塾のみなさんの課題はむしろそこにあるのかもしれない。(宿題だけはやってこよう！)